



魚のさばき方を教えるインストラクター。体験の現場は、子どもたちへの教育の場であると同時に、インストラクターが自分の持つ技術を伝えることで、生きがいを感じる場にもなっている。

夢を持てる町を

目指して

目指すのは観光振興だけではない。4つの活動を通して、町の地域振興を目指す。夢を語る人がたくさんいる町を目指し、「若狭美浜はあとふる体験」の挑戦は、これから続く。

若狭美浜はあとふる体験の 目指すもの

「若狭美浜はあとふる体験」は、体験型観光として始まりました。そのため、「観光客を増加させる取り組み」というイメージを持つている方が多いのではないのでしょうか。

交流人口の拡大や外貨獲得は地域活性の1つですが、若狭美浜はあとふる体験推進協議会が目指しているのはそれだけではありません。

はあとふる体験の目標は、体験交流を通して、美浜町のまちづくりを進めていくことです。

魅力あるまちづくりと 4つの活動目的

では、住みたい町・魅力ある町とは、どのような町でしょうか。

生活基盤の整備状況も大きな判断材料になりますが、はあとふる体験推進協議会では、「自分の町に誇りを持ち、夢を語る人がたくさんいる町になること」だと考えています。

そして、「魅力あるまちづくり」を目指して多くの人が関わり、住んでいるこの町に夢を持てることが、「美浜町の活性化・まちづくり」につながると考えています。

現在、はあとふる体験では、魅力あるまちづくりを目指し、地域振興を図るために、4つの活動目的を掲げ、それぞれの取り組みを進めています(次頁図1)。

産業の活性化

海・山・農地、あらゆる生産現場を持つ美浜町。しかし、近年は価格の低迷、設備投資の高さから第1次産業離れが進んでいます。

はあとふる体験では、農林水産業の体験を通して、その生産物の正しい価値を伝えることを目的の一つにしています。

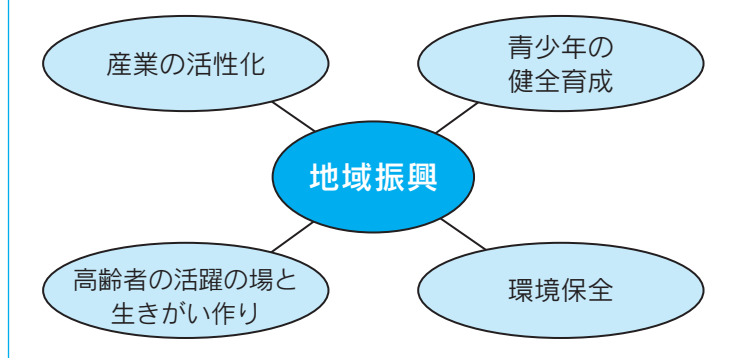
そのため、体験では、生産現場から食するところまでを一つのプログラムとし、新鮮なおいしさやおいしい食べ方まで伝えることを大切にしています。

「大変さが伝われば価値が上がり、おいしい食べ方が分かれば需要が増え、需要が増えれば価格が上がる。」日本中に理解者を増やすには地道な取り組みですが、生産現場での体験を通してしか伝わらない価値を伝えていかなければならないと考えています。

青少年の健全育成

昨今、自他の命を大切にできない悲しい事件が後を絶ちませ

【図1】若狭美浜はあとふる体験の4つ活動目的



ん。また、企業は社員採用の際に「コミュニケーション能力」を求め、中学校の学習指導要領には「人間関係の構築能力を育む」という目標が明記されています。

はあとふる体験の大敷網・食体験では、生産現場で飛び跳ねる魚を見た後、食するためにその魚を自分でさばきます。そこに「この命を自分がいただいている」という実感が生まれます。魚の切り身が並ぶスーパーでは、この心を学ぶのは難しいことです。

農村漁村での「生産現場と食」の体験は、「いただきます」の本来の意味を理解し、命あるものを大切にすることを育む機会となります。

また、民泊体験は、「初めて出会った人と交流を通し、人間関係を作っていく」という、まさに自らの力で人間関係を築き上げる体験プログラムです。

民泊体験を通し、人間関係構築能力を高め、「家族」というものを見つめ直す機会を提供していくこと。それはゆったりとした時間の流れの中で、温かい家族と過ごすことのできる農村漁村ならではの教育力です。

高齢者の活躍の場と生きがい作り

平成23年4月1日現在の美浜町の高齢化率は30・3%。これは全国値23・1%(平成22年国勢調査速報値)を大きく上回っています。高齢化が今後も進むと予想されるこの町にとって、高齢者が元気であり続けるための施策は必要不可欠です。

高齢者が体験交流で人と関わり、自分が生きてきた中で培われた技術・知識を人に伝えていくことは、社会貢献の喜びにつながり、それは生きがいとなるは

ずです。

はあとふる体験への参加に年齢制限はなく、気持ちがあれば、いつでも誰でも始めることができます。初めは「もう年やし何もできることないわ」と言っていた人たちが、現在では、体験インストラクターや民泊の受け入れ家庭として大活躍しています。

実際に体験してきた人にしか伝えられない農村漁村で生まれた技術と知恵。それを伝えていくことの大切さを理解してもらい、高齢者の活躍の場を広げていくことが、はあとふる体験の大きな目的の1つになっています。

環境保全

かつて、美浜町では地びき網漁が盛んに行われていました。しかし、獲れる魚が少なくなり、今は生業としては行われていません。当然、地びき網体験を実施しても、魚が獲れないことがあります。それが現実であり、それが伝えねばならない事実です。

山が豊かだった頃は、川から海へ養分が流れ出て、沿岸でもたくさん魚が獲れました。近年になり、人が山の生態を変え、また木材を売っても利益にならないと山を放置し始めまし



地びき網体験は、漁業だけでなく環境問題についても考える機会となる。

た。その結果、山が荒れ、海の生態系が変わってしまった、魚が獲れなくなったのです。このことは、しつらえた地びき網体験では伝えられないことです。

「自然環境を歪めたのは人、その事実を気付く、再生に努めるのもまた人でなくてはならない。」ほんものの体験を通して、このことを伝え、行動を起こす契機をつくるのが、はあとふる体験を行う目的の一つです。

美浜町の自然・産業・文化、そして、そこに暮らす人々。それらすべてがこの町の宝です。
体験交流を通して、当たり前だと思っていたものが、実は美浜のよさだと気付くことがあります。
地域を誇りに思う気持ちはそこから芽生え、魅力あるまちづくりへの土壌となります。
たくさんの人が、この町の未来に夢を持つことができるように。。。。
同じ目標に向かい意見を交わす楽しみ。同じ思いの仲間と一緒に活動する喜び。
一人ひとりのこの気持ちこそが、まちづくりの一步です。

皆様のお力添えを

若狭美浜はあとふる体験推進協議会 会長 山口 和治 さん（郷市）

異業種にある人たちが、それぞれの立場で協力し合い、町の地域振興を目指していく。そういった姿勢を大切にして、今後体験交流事業に取り組んでいきたいと思っています。
一人でも多くの町民の方が、私たちの思いに賛同し、お力添えをいただければと思っています。

若狭美浜はあとふる体験は、産業の活性化や青少年の健全育成等、多岐にわたる可能性を秘めた事業です。交流人口の拡大や外貨獲得といった今のことだけでなく、この町の将来を見据えた地域振興を図っていこうというのが、私たちの考えです。
美浜町では人口の減少が続いています。人口の少ない町だからこそできることもあると思います。それは、町民みんながお互いに知り合いになり、全員で一つの目標に向けて力を合わせることです。





「若狭美浜はあとふる体験」は、あなたの参加をお待ちしています。

◆ 体験インストラクター、民泊受け入れ家庭を募集中 ◆

あなたも体験交流事業に参加し、かけがえのない感動と仲間を得ませんか。
インストラクター、民泊受け入れ家庭は、ボランティアではなく有酬です。
興味を持たれた方は、お気軽にお問い合わせください。

※お問い合わせ先

- ・ NPO法人はあとふる美浜ネットワーク ☎32 - 2222
- ・ 若狭美浜はあとふる体験推進協議会事務局(町商工観光課内) ☎32 - 6705